

「運動界」 第十卷 第一号

昭和三年十二月十七日印刷納本
昭和四年一月一日発行

祝 奉 與 大 御



坂 屋

戰 後 野 學 中



振 興
中 國 野 球 隊

高松中學再決戦に優勝す

松本商業は准決勝に敗退し 和歌中は再決勝戦に惨敗す

◇曰く何、曰く何、近頃の流行ものになりすました中學選抜野球大會の中にも、今度の東京大學野球部選抜並に東京中學リーグの共同主催にかゝる御大典祝賀選抜大會程意義深いものは認められまい。本来ならば全国的に今少し大々的な所謂綜合夜大會が催されて然るべきもの

◇集まつた大勢、此の選抜並に選抜の甲子園大會と稱し、中大無選抜試合に優勝した事で關西學院が選に入り、お世評の關係で横濱の臨工監督と東京の早稲が選抜選抜試合の結果早稲が勝つて其の一つに加はつた。

◇大體に粒は揃つて試合は面白く運ばれた。直前に大學リーグ戦を見据れて来たフワンにも、熱のあり元氣の溢れた試合は決して眠きたるいやう感じは持たせなかつた。寧ろ毎回共に好戦がついて大學級以上の興味をさへ唆つた。二日目の大典休日の如き、早稲戦にも似たやうな盛況を見せた事は東京に於て行はれた中等學校試合には未曾有であり、如何に眞實のプレーがフワンの歡迎を受けて居るかの證左をも示したものである。目出度い奉祝試合として蓋し十二分の成功を収めたものである。

◇試合の組合せも偶然ながら面白い面合せがついた。第一日、和歌中、廣陵を随一の面合せとし、福野對關西、面白い手合せであつた。二日目、早稲、決勝の和中對福岡、高中對松商は共に絶好の面合せとして其何れが優勝しても文句ないものであつた。殊に高松中學が甲子園の露屋敷として、夏の朝香松本商業を居つた一戦はフワンをして狂喜せしむるものであつた。決勝の和中對高中戦に高中が和歌中の壓迫を耐えて異常の一擊にタイ試合として遂にドロングゲームとなつたなどは豫想以上に

であつたが、神宮戦技術阻止の行がよりから、手出しのならなくなつた結果は、こんな千載一遇の晴れがましき機会を徒過してつて、唯り野球のみが漸く東京に於て開催せられたに止まつたのは遺憾比の上もなく、更に又選抜中の幸慶でもあつた。

松本商業と高松中學との再決勝の一戦にどうも小冠者の高松中が巨人和歌中を粉砕したなど試合以外にフワンを興致せしめた。意氣に始まり、熱興に終つた大會は眞に期待以上の大成功と言つてよい。

優勝した高松中學

〔高中の打撃力〕◇どこに優勝の力を持つて居るかと思はれる程の小供々としたチームである。これが甲子園頭和中を仆し松商に肉薄したチームとはどうしても受取り得られないやうな小粒のチームである。而も其の打撃には奪ふべからざる確さがあつた。當る事を第一主義とし、球のミートに意を凝らす打撃は、癖のないフォームとわるびれない自信によつて、よく打撃の眞意を存込んで居た。コーチ水原君の指導に負ふ處大なるを首肯せしめる。殊に五人迄左打者を揃えたことは投手を苦しめる大きな条件ともなつて居る。フリーバッツチングも僅の素直さと心安さを以て、ミート專一に短振するナインの殆どどこにも穴がない。あがると思ふ事が實力を減減させるものであつたならばあがらぬ高中が、體軀の小さなハンディキャップを物とせず、眼に餘る巨剛の敵手に渡り合つて、壁々と功績を擧げて行くことも可能と首肯されやう。高中の優勝は打撃力の勝利であつた、打撃力の勝利は正確第一の素直な打法の勝利でもあつた。此點は甲子園中學チーム

の高中が、強みたる投手チームに敗れる處があつたことも見られる。

◇打撃の精確な者は、試合の當初、敵投手の肩の定まらない中に先づ打撃を放つて試合をリードする、これが高中の戦法として最も鋭い指示所以である。早稲は三回迄に試合を決定されて了つた。和中の第一戦に致命傷を負ひ、三四回に試合を決定されて了つた。和中の第一戦も第一回に快打された。そして投手の氣の緩んだ九回目に隙を遊撃の一打で試合を逆返されて了つた。第二回戦も野郎の一回に決定的の打撃を浴び、二回の猛襲で益々試合を窮乏させて了つた。四戦の得點は廿有三點、之は打力の精確が實に高中の強味であつた。

「梶原投手」◇打撃力に確な高中は、更に投手梶原の第一線防備によつて十二分に敵を阻むことが出来た。細身で見ると無力量な梶原は、乃父から承けた燃ゆるやうな意氣と、明晰な頭腦によつて打者の心理を看取する鋭さを持つて居る。あの體格に、驚いスピードのある調もなく、有つてもつとく管はない。梶原はスピードの投手ではない。カーブは緩いアウトロと可なりよく落ちるドロップを有つ併しカーブそれ自身が速いものではない。球質から言へばスピードも速い小川に及ばざること遠く、變化や巧味に於て戸來に及ばず、投球に於て八ノ川に及ばない。唯一の梶原をして之等球質や投球術に於て驚かすから認に梶原を稱したつたコントロールドがあつた

十分に優勢を握らしむる事が出来た。殊勝の第一戦として振舞するに足りやう。

「守備力と走力」◇梶原を助けるバツクの守備力もよく調つて居る。内野外野を通じてこれと云ふ穴がない。眼につくやうな巧さや華やかさではないが、打撃力と同じく地味で確實である。野球の強味は確實に越したことはない、眞摯な命、それをモットウにして傍目もふらず力戦する處に高中の強味があり生命がある。

◇凡てのプレーを通じて高中の乏しいものは走撃であらう、體格の優小に免れない點であるが、もし高中にして走力に全一段の研鑽と練習を加へたならば

投手を要求するもの故コントロールである、梶原はそれを驚くべき

せて居た。内外角を固く直球とカーブのコントロール、これが梶原の身上であつた。此コントロールと共に梶原のカーブには一異色があつた。球のローテーションが普通のカーブとは違つてフワフワと道草を喰ひながら飛んで来る。スクルウ。ボールや、ナツクル。ボールの振動を見たことのない我々に果してどんな味のあるものかは曉らう等はないが、梶原のカーブは或る時は、此の種の球の有する原理が含まれて居る。所謂スロー。ボールではない、通常の投球モーションで、通常の速さを持つて投げられた球が、唯フワフワと手間取つて一定の時間にプレートに來ない、見た眼に稀らしく感ずる程であるから打つ打者には陰面喰つたに相違ない。凡てのカーブではないが、此の要領を持つたカーブの混投されて居たことは確に打者には介なスイングの體感を起させたに違ひない。チエンヂ、オブ。ベースに迄また餘裕のない梶原が、事實上於てチエンヂ、オブ。ベースと同じ効力を有する球を持ち合せて居た事は、亦實に彼のコントロールと相俟つて至妙の投球術に一致して居たと云はれやう。

◇何れにしてもコントロールは梶原の力強い武器であつた。四戦して敵に與へた總得點は七點に過ぎなかつた。味方のバツクが二十三點を奪得する間に、敵を七點に喰止め得た梶原の第一線守備は、高中をして一見上げた學生チーム「◇技術の高

高中「豫ねてお預りして居た敗北をお返し申します」
「……」
和中心「俺は又一つ土産に貰つた」



學生チームの傾向に汚されて了つて、何處迄も學生チームらしき姿態を

一見上げた學生チーム「◇技術の高中として力一杯の試合をさせ、更に學生チームとして最も快き勝利を與へるものはナインに瀟々元氣と熱と眞剣であつた。學生チームの本領は、單に試合に勝つことのみが凡てではない。敗れても尙學生チームの本領を失はず、勝つては更に益々學生チームの本領を發揮する處にチームの價値が存し、氣品が疑はれる。小さな高中チームが見た眼の可憐さだけであつたならば、彼等の優勝は何の誇りとはならなかつた筈である。可憐な小軀に充ちられる元氣と熱を以て、勝敗以外に勇戦に、堂々と戦つた其の態度の學生らしさが、高中の強味をしてより以上に輝きを持ち、優勝以上にチームの價値を認識させた。近來時としては技術の野球に墮し、勝負の野球に没頭する中

ムを得たことは蓋し率説大會として有終の美を演し得たものとして既に絶大の欣快を感えしめる。

「殊勲の高橋中堅手」 ◆個人としては、四日連続の殊功を擲つた高橋の外に、中堅高橋の偉功をも特筆するに足りる。決勝の對和中一回戦は三對一を以て和中の壓迫裡に九回に入つた。而も早くも一死試合は當然和中の掌中に収まるものと見る中、岡見と外山が四球に出た。次打者は高橋、小柄チーム中での小柄である。初球のインドロを見送つて一ストライク、次のインドロに空振りして二ストライク、次の高目インゴナ。ボールと近いインドロ二つ見送つての第五球目小川が平凡に通した外角寄りの直球を會心のミートして右翼越に二塁打した。岡見は生還、外山も續いて本壘を衝き右「二」捕のりレー球を二塁手高投して外山も入つて二塁、高橋は三進、大勢は一瞬にして覆へつた。此一撃は和中の握つた優勝を、其の掌中から撈ぎ奪つた貴重の一打であつた。決勝二回戦に疲れた小川をして益々苦悶感に陥したのも實に此の高橋殊勲の一撃が大を成して居る。

◆殊勲の高橋は一死三塁に據つて最後の決勝球を請つて居た、而も剛球小川が死守するカーブは牙へ返つて、味方のバットは乗る隙がない、四番の中村は腕く三振に奪がれて二死となつた。五番の三原も逸早く二ストライクをとられた。一撃三日の苦戦に榮えざる優勝を演

惜しく逸勝した和歌中……

◆和中は優勝してよいチームである。實力に於ても、氣品に於ても、特に小川の投手力を標準として十二分に優勝の價値あるチームであつた。不幸にして決勝の第一戦に、而も戦ひ終らんとする九回目にして不運の降伏は降つた試合を流した上に、再決勝には小川の球史に未だ曾てない無惨の悲運が絡みついて、和中として茲幾年間嘗めた事のない惨敗の憂に遇つた。運命の測り難きは世の常とは言へ、誰が和中に此の惨めな敗戦を豫想し得たことであらう。

「小川投手の缺陷」

◆中學級名投手として鳴らした小川のスピードとインドロのカーブは、依然物變いものであつた。唯好漢惜しむらくは力一杯の剛球を侍んで球に變化が乏しい。當て主戦の打者は小川の常コースを待ち伏せてミートする、振る打者は球速やカーブに抑へ得ても、當る打者を外し難い、其處に小川の隙があり、巧妙な敵手に乗せられる。第一日の廣陵は優勝を掴み野心のあつただけに、打つてかゝつて小川の力に抑さへられた。好運の二塁打、それは五回目捕前の一壘落球の敵失に出た三浦を置いて大澤が、遊撃の二壘安打に動いた後へ捕球して三浦を入れた唯一の安打にして適時の長打となつた一撃はあつたが危く無安打無得點に終る試合であつた。

す一撃！それは打者の三振に先だつて本壘を盜奪するより外に策はない。次の第三球に高橋は決然として本送した、球は大きくアウト。

カーブして捕手のミットに納まつた。優勝をまつ本壘は、今二回の前にある、高橋は凡てを忘れて入り込んだ、併しそれは遅くして塁前に刺された。地震き打つ不氣味の音と共に高橋は其の場に昏絶した、仰向けに倒つて頭が後頭部を打つたのである。コーチ水原、根津部長等が駆けつけて緊急の介抱に高橋は正氣ついたが、試合は直く九回裏の守備に入つて居る。彼は直ぐ戦友と共に守備に向つた、正氣はついたが強かに打つた頭はまだ朦朧として意識が十分でない、ダイヤモンドを歩む高橋は暗暈として今にも仆れそうによろめいて居る。感激の聲が期せずして満場を包んだ、何と云ふ健氣さであらう。勝たぬ迄も此の小勇士の爲めに、高中を敗戦から助け度い——三万のファンは誰しもが同じ心を以て彼の爲めに震り顫つたに違ひない。翌日の高橋は又痛みを押し出陣した、そして又三塁打と二四球を叩つて和の中粉砕の威力となつた。高中優勝の裏にはこうした雄々しい魂の光りがあつたことも忘れられない。

◆高橋と共に一星光宗も二日自校商戦の日練習中にイレキエラバウン下を面に當て負傷したが、手を押して……遂に試合を通した元氣は一戦の武勇傳をなして居る。

◆二日目の福岡は當て主戦の確な打法を採るチームである。小川は二回に三安打を集注されて二塁を奪はれ苦戦に陥つたが、五回目屈辱の安打が二つの敵失に助けられて一撃、六回小川と上田の二塁打があつて漸く頽勢を回復し、九回裏山本と喜多島の二安打と一四球に二死満塁となつた時土井の右飛を二塁手と右翼が衝突して落球し勿怪の點を拾つて辛勝した。六回福岡の二安打連發のチャンスが徳武戸來の一撃を伴つたら小川は此時既に窮地に迫込まれて居たものである。小川としては早くも其投球法の隙を看破された苦戦であつた。

◆決勝の敵手高中には今春來試合毎に不首尾の戦ひを奮て居る、小川の球質に最も鋭い眼をつけたのは高中であり、小川に對して強い自信を有つのも高中である、二決勝戦に和中和會へたら」とは高中の自信であり、希望であつたかも知れない。松岡中島の亂球に僥倖した高中も、もし福岡と面が合つたら結果は測られなかつた。それほど高中は小川の苦手であり、高中は小川を怖れて居なかつた。小川から言へば缺陷の遺囑なき隙が第一決勝の逆襲を買い、更に再決勝戦の惨敗を招いたものである。

◆前日惜しい一撃を喫してタイ試合となつた小川は、連投の疲憊に球威は著しく衰えて居た、然る緊急時に乏しい小川は衰えたスピードと一徹なインドロを固守して力で争つた、其處に悲愴な運命は小川を

△松商二、鹿商〇 同日午前十時四十分より戸塚球場に於て
 松商は一回中村大月の安打、小林のバントに送られ中島の三割ハンブ
 ルに一點、八回も大月、佐藤の安打あり中島の一馬後の邪飛を能勢中
 總を失して一點、鹿商は入らず。

(鹿商)	打	安	三	四	犠	盗	失
(遊)	打	打	打	打	打	打	打
代本	3	0	0	1	0	0	0
田四餅	2	1	0	1	1	0	0
(一)中	4	0	0	0	0	0	1
(中)志和	4	0	2	0	0	0	0
(右)吉坂	3	0	0	0	0	0	0
(三)留口	2	0	0	0	1	0	2
(三)能勢	3	0	2	0	0	0	1
計	28	3	4	2	2	0	5

	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
鹿商	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松商	1	0	0	0	0	0	0	1	A	2

(松本)	打	安	三	四	犠	盗	失
(遊)	打	打	打	打	打	打	打
中大小	4	1	0	0	0	0	0
(遊)林	4	2	0	0	0	2	0
(中)藤	4	2	0	0	0	2	0
(中)鳥	4	1	0	0	0	0	0
(中)潮	4	1	0	0	0	0	0
(中)田	3	1	0	0	0	0	1
(中)村	2	0	0	0	1	0	0
(中)恒	3	0	1	0	0	0	0
計	30	6	1	0	3	2	1

(審判)大内・波部氏

△高中五、早寛〇 九日午後一時五十七分より磯崎、雲馬、
 藤氏審判、高中は三回一四球二失に一死満塁となり光宗の二側安打
 に三點、五回二安打一死後田淵の犠飛に一點、六回も二安打と阿見の
 三割に一點、早寛機なし。

(早 寛)	打	安	三	四	犠	盗	失
(右)	打	打	打	打	打	打	打
福深	4	0	0	0	0	0	0
(遊)加	3	0	0	1	0	0	0
(中)小	4	1	3	0	1	0	0
(中)田	4	1	1	0	0	0	0
(中)佐	4	0	0	0	0	1	0
(中)渡	3	0	0	0	0	0	0
(中)星	3	0	0	0	0	0	0
計	32	4	9	2	0	0	6

(二壘打)佐伯
 (時間)一時間五七分

△福岡九A、關西學院八 九日午後二時から戸塚球場、
 審判藤本、西村氏、福岡は一回二點、二回五點、五回に二點を入れ、
 關西は一回一點、三回三點、五、八回に各一點、九回二點計八點を入
 れたが及ばず九A對入で敗る。

(福 岡)	打	安	三	四	犠	盗	失
(捕)	打	打	打	打	打	打	打
村加	4	1	0	0	0	0	0
(右)鈴	4	2	0	0	0	2	0
(遊)佐	4	2	0	0	0	2	0
(中)徳	4	1	0	0	0	0	0
(中)戸	4	4	0	0	0	0	0
(中)小	4	1	0	0	0	0	0
(中)久	3	1	0	0	0	0	0
(中)小	2	0	0	0	1	0	0
(中)三	3	0	1	0	0	0	0
(中)二	2	0	1	0	0	0	0
計	36	9	3	2	1	2	4

(三壘打)望月・加藤
 (二壘打)嶋村・徳武・金子
 (壘投)藤
 (逸球)浅井
 (時間)二時間廿分

准決勝戦

△和中三A、福岡二 先攻の福岡は二回佐藤徳武の連安打
 戸来の二側安打に二點を入れ、和中は一回一死喜多島の二壘打、土井
 の四球あつたが入らず、四回も二死球で無死二走者あつたが、島本の
 バント投飛となつて三重殺され又入らず、五回脇所安打橋本三割ハン
 プル、喜多島の二割に一點、六回も小川、上田の二壘打ついて一點
 九回島本安打、橋本四球、二死後喜多島の安打で満塁となり、土井の
 右飛を二壘手と右翼衝突して島本を入れA三對二で福岡惜敗。

(先)	打	安	三	四	犠	盗	失
(捕)	打	打	打	打	打	打	打
村加	4	0	0	0	0	2	0
(右)鈴	4	0	1	0	0	2	0
(遊)佐	3	0	0	1	0	0	0
(中)徳	4	1	3	0	1	0	0
(中)戸	4	1	1	0	0	0	0
(中)小	4	0	1	0	0	1	0
(中)久	3	0	0	0	0	1	0
(中)小	3	0	0	0	0	0	0
(中)三	3	0	0	0	0	1	0
(中)二	2	0	0	0	0	1	0
計	32	2	6	1	1	7	0

(三壘殺)戸来——鈴木——小坂
 (二壘打)喜多島・小川・上田
 (死球)山下・上出
 (審判)野本・内田・土井氏
 (時間)十一月十日
 10・33——12・40於外苑

△高中五、松商四 松商中島コントロールなく松商は第一
 回阿見死球、外山四球、高橋のバント内野安打で満塁となり、田淵の
 四球で押出し一點、光宗の一割で一點、中村の三割で一點三點を擧げ
 三回一死後高橋四球、田淵中堅安打光宗の二割を壘手封殺せんとして

悪投満塁となり中村の四球で又押し出しの一點、茲で中島中堅に退き、佐藤投手に代り、梶原の三直で田淵を併殺して喰止む、裏の松商は中村中村と連安打し大月のバントに送り、小林の二打で中村恒封殺されたが佐藤の遊歩ハンブルで一點、△四回の高中は一死後三原中左衛門三打、岡見四球併殺企て三原本壘に刺されたが、外山四球で併殺二打、五回松商も中村大月四球小林の投手バント野選で満塁佐藤の二打に二打、中島の右前安打に二打二打を加へ更に八回一死後の中島遊歩低投に生きて二盗二死後田邊の三線安打に還つて差を一點につめたが及ばず五打四で高中の勝となる。

〔決勝〕 高中三、和 高中三

高中高橋殊勳の一撃

◇高中は劈頭から岡見外山の連安打あり高橋のバントに進めた上中村正の遊歩に一點を入れ、裏の和の中も鎌田四球に出て喜多島の三打に封殺された後、土井の遊歩ハンブルと小川の四球に満塁となり山下の遊歩に二打、二回も和中は上田安打島本に送られ脇所の安打二盗後橋本の中飛に二打、鎌田の中堅直球に脇所も入つて二打をリードしたのが高中は爾後小川に封ぜられて六回に岡見の一安打あつたのみ、和中也梶原に阻まれて六回山下の安打、八回敵失の二走者あつたのみ。◇九回に入つて高中一死後岡見外山連四球に出でた時、高橋右越の二壘打して二打を入れて同點となり、裏の和中は最初の山下が遊歩一壘に出たのみつかず、延長戦に入つても兩投手好投して走者なく十一回三對三の下のロングゲームに閉戦した。

〔高中和中決勝第一戦〕

(和)	(中)	打	安	三	三	盜	失	補	刺
(右)	(三)	(二)	(投)	(中)	(捕)	(遊)	(左)	計	
鎌	田	4	0	1	0	0	0	0	0
喜	島	5	1	0	0	0	0	0	3
土	井	4	0	0	0	1	0	0	3
小	川	4	0	0	0	1	0	0	3
山	下	5	0	1	0	0	0	0	2
上	田	4	1	1	0	0	1	0	0
真	本	3	0	0	1	0	0	0	1
脇	所	4	1	1	0	0	0	1	0
本	所	3	0	0	1	0	0	0	0
計		36	3	4	2	2	1	2	11

(高)	(中)	打	安	三	三	盜	失	補	刺
(左)	(二)	(中)	(遊)	(右)	(捕)	(一)	(一)	計	
岡	見	4	2	2	0	1	0	0	0
外	山	3	1	1	0	1	0	0	0
高	橋	3	0	1	1	0	0	0	1
田	正	4	0	0	0	0	0	0	2
三	原	4	0	0	0	0	0	0	2
梶	原	4	0	0	0	0	0	0	3
田	淵	4	0	0	0	0	1	0	0
中	村	2	0	0	0	0	1	0	0
光	宗	2	0	0	0	0	0	0	1
小	舟	2	0	0	0	0	0	0	1
計		34	3	4	1	2	6	0	32

(高)	(和)	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
得	得	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
點	點	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
安	安	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
敵	敵	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
得	得	0	3	0	0	0	1	0	0	0	4
點	點	1	0	0	0	0	0	0	1	1	3
安	安										
敵	敵										

(二壘打)高橋 梶原 三谷 宗 代打して
(審判)中村 九回小舟 光宗 代打して
(交代)高橋 入る
(ベンチコーチ)高中。水原伊丹 和中。井口

〔高中對松商戦績〕

(先)	(高)	打	安	三	三	盜	失
(左)	(二)	(中)	(右)	(一)	(三)	(投)	(捕)
岡	見	3	2	1	0	1	0
外	山	3	1	0	0	1	0
高	橋	3	2	1	0	0	0
田	正	3	0	1	0	1	0
中	原	3	0	0	0	0	0
梶	原	4	0	0	0	0	0
田	淵	4	0	0	0	0	0
中	村	3	0	0	0	0	0
光	宗	4	0	0	0	0	0
小	舟	4	0	0	0	0	0
計		30	5	5	0	2	3

(松商)	打	安	三	三	盜	失
(二)	遊	左	(中)	(投)	(捕)	(一)
村	月	4	2	2	0	0
中	大	3	1	0	0	1
小	佐	3	0	0	1	1
佐	中	4	0	0	1	0
中	中	4	1	1	0	0
百	田	4	0	1	0	0
田	村	4	0	1	0	0
村	村	4	0	1	0	0
恒	村	4	0	1	0	0
計		34	4	7	2	3

(三壘打)三 (逸球)百瀨
(併殺)村母(無補助)
(死球)岡見・中村正
(審判)藤田・岡城寺・西本氏
(高)十一月十日 2:05—4:14於外苑

(高)	(松)	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計
得	得	3	0	1	1	0	0	0	0	0	5
點	點	1	1	1	1	0	0	0	1	0	5
安	安	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
敵	敵	0	0	1	0	2	0	0	1	0	4
得	得	1	1	2	1	1	0	0	1	0	7
點	點	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
安	安										
敵	敵										

〔再決勝〕

和 中十點を轍して零敗

小川亂打され、土井も振はず

試合経過前に見ゆ。高中は一回三安打一四球に三點、二回二安打一失に二點、三點をリードし、五回も梶原の安打あつたがつかず、六回小川二安打一打を入れて土井と代り岡見を四球に出し、一死後高橋への暴投に二打を加へ、七回も二死後に安打され、九回三原に四球捕逸に二進、田淵に安打されて一點、中村に四球、二死後岡見の二打失に一點、外山の右安打に又一點三點を加はえて十點。和中は四回に入つて二死後の土井が始めて中前安打に出たのみ二盗、小川も四球についたが山下二飛にりり五回も二死脇所左前二壘打に出で橋本四球についたが鎌田三振にりり六回は喜多島、土井と連安打したが、小川投飛山下三振、上田二打に徒過、九回も一死山下三線安打に出で上田の遊歩に併殺されて零敗に了つた。

◇泣ぐましい部長の愛◇

△高中の根津野球部長は同校出身の先輩で早大を卒え英語を擔任する高松ツ見である。従つて部や先輩や土地有志との間柄は極めて理想的に纏まつて行く、人の和は強い力である。決勝第一日、高橋中堅手の負傷後などはバツクネットのスタンドからベンチに降りて来て其日も翌日も同選手に付き切りで絶えず介抱をして居る様は泣ぐましい程であつた、こんな部長に抱かれるチームは幸福である。

〔高中和中再決勝戦績〕

(高)	打	得	安	撥	盗	三	四	刺	補	失
(左)	見	山	外	高	橋	三	原	中	村	新
5	0	1	0	2	0	1	0	0	0	0
6	2	3	0	1	1	0	3	6	1	
4	2	1	0	0	0	2	2	0	0	
5	1	2	0	0	0	0	1	2	0	
4	1	0	0	0	1	1	0	6	0	
5	0	1	0	0	0	0	0	2	0	
5	1	2	0	0	0	0	0	0	0	
4	2	1	0	0	0	1	4	0	0	
5	1	1	0	0	1	0	1	7	0	
計	43	10	12	0	3	3	5	27	16	1

(和)	打	得	安	撥	盗	三	四	刺	補	失
(右)	鎌	田	島	喜	多	井	川	下	山	本
4	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
4	0	1	0	0	0	0	1	3	1	
4	0	1	0	1	0	0	2	3	0	
3	0	0	0	0	0	1	0	4	1	
4	0	1	0	0	1	0	0	0	0	
4	0	0	0	0	1	0	1	4	0	
3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	
3	0	1	0	0	0	0	3	1	1	
2	0	0	0	0	1	1	3	0	0	
計	31	0	+0	1	4	2	27	11	3	

(三壘打)高橋(二壘打)中村(新)臨所
 (塁球)土井(逸球)島本
 (直殺)三原—外山—光宗
 (時間)二時間十二分
 (審判)柳岡・土井・森氏
 (交代)和・中・六回見より土井投手
 小川二壘に入る
 (ベンチコーチ)同前

(高)	得	安	撥	盗	三	四	刺	補	失
3	2	0	0	0	2	0	0	3	10
3	2	0	0	1	2	1	1	2	12
0	1	0	1	0	0	0	0	1	3
2	1	0	1	1	1	1	2	2	11
0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
0	0	0	1	1	2	0	0	1	5
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	2	2	2	0	0	0	6

△本號 特價 金六拾錢

(送料一錢五厘)

年 新 賀 謹

し謝を誼厚御の來年
 る祈を助援御の來將

日一月一年四和昭

社 界 動 運

同一部業營・部輯編

(製複許不)

發行所 運動界社
 東京市牛込區下宮比町一番地
 電話牛込四〇一八番
 振替口座東京三三三番

昭和三年十二月十七日印刷納本
 昭和四年一月一日發行

廣告取次所 博報堂萬年社
 東京市牛込區下宮比町一番地
 編輯兼 太田茂
 發行人 友岡泰
 印刷所 中央新聞社代理部
 東京市牛込區下宮比町一番地

(定價) 一年金五圓九拾錢 (送料共)
 半年金貳圓九拾五錢 (送料共)
 半年金貳圓九拾五錢 (送料共)

送金に就いて
 註文は凡て前金とす前金切の場合は發送を止む
 郵便切手代用は一割増
 送金は振替又は爲替の事
 (振替は餘裕日時を要す)
 代金引替一切謝絶す